

## 【文化学部】2024（令和6）年度 FD 活動の「年間計画」

### 1. 今年度の取り組み（前年度の「FD 年間報告書」から修正）

文化学部では、これまで初年次の演習科目（京都文化学科「京都文化フィールド演習」、国際文化学科「入門セミナー」）、2年次の演習科目（基礎演習）、3年次の演習科目（文化演習Ⅰ）、4年次の演習科目（文化演習Ⅱ）を中心に「学習成果実感調査」の分析を行ってきた。2023（令和5）年度学部授業・カリキュラム改善に向けた「中間報告書」（2023（令和5）年10月27日付）において報告されたように、演習科目に対する高い満足度が確認された一方で、事前事後学習および読書習慣について質・量ともに改善の余地があること、アンケートの回答率が50%にとどまっていることなどの課題も示された。こうした分析に基づいて今年度も学部独自設定設問において演習科目を対象とし、引き続きデータの集積に努めたい。特に読書習慣の改善については、学部独自の事業である「むすびわざブックマラソン」の推進、読書交流アプリ「BOOK MARRY」の活用に大きく関わることから、いっそう注視していきたい。

学部では、2026（令和8）年度から改組を行うにあたり、文化構想学科、京都文化学科、文化観光学科の3学科で必修とされる基幹科目「京都文化概論」「観光学概論」「比較文化概論」「デジタルヒューマニティーズ概論」をリレー講義として開講する予定である。今年度はリレー講義のよりいっそうの質向上を図るための公開授業とワークショップを設定し、教員間で取り組み方を学び合う機会を設けたい。

こうした試みによって、学科間の連携の強化、協力体制の構築を目指し、学部としてのカリキュラムの充実を図るとともに、改組を見据えて、より魅力的な学部教育が展開できるよう力を尽くしたい。

### 2. 「1」を踏まえて、今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

#### (1) テーマ：

リレー講義として実施されている学部の基幹科目（必修科目）の質向上を重点テーマとする。

#### (2) 目的：

2026（令和8）年度の改組を見据えて、学部の学びの基礎となる基幹科目（必修科目）の実施形態であるリレー講義の在り方をめぐって、教授法や運営方法を学び合いながら、そのノウハウを学部全体で共有し、カリキュラムとしての充実を図る。

#### (3) 期待する効果：

リレー講義は複数の教員が実施回ごとに単独で担当することが多いため、他の教員の取り組み方などを知る機会が少ない。モデルケースとなり得る授業を選定した上で内容を公開し、実情がどうなっているのか、どのような工夫がなされているのか、認識を深めていきたい。例えば、複数の教員が一堂に会して同一のテーマで語り合うようなシンポジウム形式、学生にも登壇の機会を与えるような座談会形式など、多様な運営方法を模索することができれば、より魅力的なカリキュラムを提供できるのではないかと考えられる。

### 3. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年1回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

(1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

【公開授業】

- 実施日時・場所：2025（令和7）年1月7日（火）3限目／11号館2階11201教室
- 科目名：カルチュラル・スタディーズ
- 担当教員名：志賀浄邦教授、近藤剛教授、田中里奈准教授
- 選定理由：学部では多くのリレー講義が行われているが、この科目には担当教員全員が登壇して全体の総括を兼ねた座談会形式を取り入れた回がある。どのようにしてリレー講義をまとめ上げているのか、参考にしたいと考えたため選定におよんだ。大教室で行われている多人数の履修者を抱えたリレー講義ではないが、公開授業とするには適当な規模であることも考慮されたものである。

【ワークショップ】

- 実施日時・場所：2025（令和7）年1月7日（火）4限目／未定
- 実施内容：リレー講義に関するノウハウや情報を共有し、学部全体の授業改善につなげる。

(2) その他研修会等：

※（1）以外の学部FDとして実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

【研修会】

- 実施日時・場所：2024（令和6）年10月頃・未定
- 実施内容：デジタルヒューマニティーズの実践例について（仮）
- 実施目的：デジタルヒューマニティーズの理解は、改組において重要な意味を持つ。その実践例を学ぶため、ソフトバンクから講師を招聘し、話題提供を行ってもらおう。現時点での課題、今後の展望などについて、質疑応答を行う。その上で、参加者間で意見交換を行う。

※この内容は本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。